

## テーマ

地震・津波を想定した避難訓練について～自分の命は自分で守る～

鹿児島県東串良町立柏原小学校

### I 学校の概要

南海トラフ巨大地震による本町の被害想定は、最大震度6弱、津波の高さは9mとなっている。標高0～10mの区域が大半を占めるため、町全体に大きな被害が及ぶことが予想される。

本校は海拔9mである。町の災害時避難場所にも指定されており、災害時は屋上に校区住民が避難するようになっている。

### II 避難訓練の取組の概要

#### 1 取組の内容、方法等

(1) 11月に町内一斉の津波避難訓練が計画されており、本校もそれに合わせて、避難の仕方を確認したり、地震や津波の怖さについて考えたりする機会にしている。

(2) 避難訓練の前に町内小・中学校の教頭、防災担当者、町の職員合同で研修会を行っている。その際、具体的な避難の仕方や工夫の在り方について検討する機会を設けている。

#### 2 避難訓練の内容とねらい

(1) 学校と地域が一体となった避難訓練を実施することにより防災意識の一層の高揚を図る。

(2) 災害発生時における安全で素早い避難の仕方や自他の生命を守る態度を身に付けさせる。

#### 3 防災意識を高めるための取組

(1) 防災意識を高めることをねらいとして、月1回のショート避難訓練を行っている。2学期以降は児童に知らせずに実施し、より実際に即した形で行うようにしている。

(2) アイリブルプロジェクトに参加し、東日本大震災の被害にあった方の話を伺うことにより、防災に対する意識をもち続けることの大切さを実感する機会をもつ。また、専門的な視点から、地震や津波の起こるメカニズムを知ることにより、避難の仕方の在り方について見直す。

#### 4 避難訓練等の状況

##### (1) 地震・津波の避難訓練の実施

ア 開催期日 令和3年11月13日  
イ 参加者 全児童、地域住民  
町職員、保育園関係者  
ウ 参観者 なし

### (2) 避難訓練等の実際



【校舎屋上に避難する場面】



【アイリブルプロジェクト:東日本大震災で娘を亡くした方の話を伺う場面】

### 5 取組の成果と課題

#### (1) 成果

- ・ 月1回のショート避難訓練を実施することにより、防災の意識を高めることができた。
- ・ 町内一斉に避難訓練を行うことにより、職員、児童一人一人が危機意識を高めて訓練に参加することができた。
- ・ 震災を経験した方の話を伺うことにより、地震・津波の怖ろしさを改めて知ることができた。また、命の大切さも実感するよい機会になった。

#### (2) 課題

- ・ 町内一斉で行う訓練の意義を高めるために、避難後の対応や保護者への引き渡しの在り方について検討する必要がある。